

南京国際平和通讯



Nanjing International
Peace Communication

「南京国際平和通信」ガイドンス

主办：侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆

承办：南京大屠杀史与国际和平研究院

国家公祭の前、8名の南京大虐殺生存者
が世界へ平和を訴え
180名の海外の学生が記念館で南京大虐殺
について学習
登録されている南京大虐殺生存者がわず
か80人

06

2019年12月 第650期
December 2019 Issue 06

和
平

Peace



編集者から

読者の皆様：

黄金色のプラダラスの葉が南京の秋を彩り、美しい金陵の街から、第6期「南京国際平和通信」をお送りします。読んでくださると嬉しいです。

本文は3000字ぐらいで、読むには5分間を掛かります。

トップニュース

8名の南京大虐殺生存者が世界へ平和を訴えました

11月5日の晩、南京大虐殺生存者楊桂珍さんが死去し、享年102歳でした。11月16日夕方、南京大虐殺生存者朱惟平さんが死去し、享年91歳でした。これで登録されている生存者はわずか78名になりました。



11月18日、夏淑琴、葛道栄、艾義英、陳徳寿、岑洪桂、馬庭宝、石秀英、傅兆増など8名の南京大虐殺生存者が記念館に来て、一緒に平和を訴えました。彼らの中で一番年

長の方は 95 歳の岑洪桂さんで、一番年下の傅兆増さんもすでに 83 歳でした。

彼らは無残な南京大虐殺を経験し、親が血に染まった子供時代を過ごして、人生も変えられました。82 年が過ぎましたが、彼らの一番素朴な願いは：平和がいつまでも続くことです。



動き

彼らが記念館で平和の花を植えた

11 月 13 日、「追悼の意を表し、平和を祈る紫金草種まき運動」が記念館でスタートし、60 名の各界の代表が 6 組みに分かれ、6 つの南京大虐殺犠牲者埋葬地から出発し、自転車で記念館の平和広場に戻り、各埋葬地で収集した種を紫金草花園にまき、来年春の開花に期待を膨らませました。



「文学都市」南京では、南京大虐殺に関しては
これらの文学作品を出版した

10月31日、南京が正式にユネスコに「文学都市」と認定
されました。南京では、1937年に起こった南京大虐殺も

過去にいろいろな文学作品のテーマになっていて、「南京血祭」や「南京大虐殺」や「南京レクイエム」「雪中血」などがそれぞれの視角から歴史を描き、平和の尊さを伝えました。



この日本人がすべての私財をなげうって、 毒ガス戦の証拠を南京に贈呈

9月3日、日本の学者松野誠也さんが長年にわたって研究、整理した日本軍の毒ガス戦作戦報告資料集「迫撃第五大隊毒ガス戦に関する資料」を記念館に贈呈しました。

今年7月7日の日本共同通信社ニュースによると、松野誠也さんは、かつて日本軍が中国戦場で毒ガスを使って作戦した記録を発見したそうです。これはいままではじめて発見された、日本軍自らの毒ガス使用した記録であり、鉄

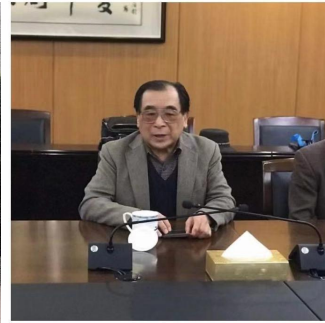
証は山の如しです。



日本軍元兵士の二世が戦争を反省し、平和を追求する

10月27日午前、日本福井県友好訪問団一行15人が記念館を見学しました。訪問団の団員の平均年齢は70歳で、多くの団員が定年前は社会学あるいは歴史学の先生でした。

団長山本富士夫さんは日本福井大学の名誉教授で、かつて南京大虐殺に参加した元日本兵山本武の長男でもあり、弟の山本敏雄さんと一緒に記念館に父親の陣中日記を贈呈し、また南京で講演もしました。「戦争世代の二世として、これまでしてきたことは、後世の人が日本の犯した罪を忘れないように、戦争を絶えずに反省し、平和を追求するためです」と。



山本富士夫

記念館の職員が日本軍「慰安婦」真相

証言集会に参加するために訪日

10月下旬、記念館の分館一南京利濟巷慰安所旧跡陳列館の職員が熊本、長崎、福岡の三都市で「日中間の不幸な歴史真相証言集会」に参加し、また「第二次大戦中の日本軍慰安婦制度」に関して三ヶ所で報告会を行いました。



180名の外国学生が記念館で歴史に関する授業を受ける

10月16日、アメリカやドイツや日本やポーランドなど30以上の国と地域から180名の外国学生が記念館で第25期南京紫金草国際平和学校の交流活動に参加しました。

ロシアの女子学生シーアさんは「記念館の存在は非常

に有意義で、ひとりひとりの人間の命と彼らの物語を忘れてはいけません。ここで勉強になったことを周りの家族や友人にも伝えたいと思います。戦争は絶対だめで、平和を大事にしていきましょう」と感想を述べました。



シンドベーク展が南京とデンマーク のオコスで同時に開催された

8月31日午前、「南京のデンマーク英雄ーシンドベーク展」が南京とデンマークのオコスで同時に開催され、シンドベークさんの銅像もオコス市ミンドパーケン記念公園でデンマーク女王によって除幕されました。これらのイベントはすべて南京大虐殺期間中に南京市民を助けたデンマークの英雄、シンドベークさんを記念するためです。



「正義の裁判―東京裁判 71 周年写真展」が記念館で開催

9 月 18 日午前、「正義の裁判―東京裁判 71 周年写真展」が記念館で開催され、東京裁判の検察官秘書兼通訳、97 歳の高文彬さんが鐘をつく除幕式に参加しました。

展示は「東京裁判への道」、「東京裁判」、「アジア太平洋地区各国の日本戦犯裁判」の三つの部分からでき、総面積は 500 平米で貴重な文物が 9 点展示されました。

また「東京裁判」という画展も同じ時期に記念館の「三つの必勝」ホールで開催され、この絵は著名な画家李斌さんをメインに創作され、東京裁判に参加した裁判官、検察官、被告、弁護士、証人、法廷のスタッフなど 450 人の人物が描かれて、繰り返して現れた人をいれて全部で 633 人も描かれています。



新劇「あなたに聞きたい」が南京で上演 日本の青年学者が中日の歴史と未来に 対する想いを表現した

9月19日夜、新劇「あなたに聞きたい」が名門大学の南京大学で上演され、この劇は中国、日本とマレーシアの3人の若い女性が、騙されて満蒙開拓団として赴いた満州国で残された3人の日本人残留婦人の過酷な運命に感動し、また彼らの日本政府の戦争責任への批判も聞いてあげる物語で、戦争を痛恨し、中国人の恩情への感謝と中日両国の永遠の平和と友好を願う内容でした。

この劇の脚本を書いたのも主演したのも北京映画学院の大学院生小林千恵さんです。彼女は強い意志と真摯な感情

の持ち主であり、この劇はまた彼女の 7 年来の中日関係に対する想いでもあります。かつて彼女もドキュメンタリー「戦後の残留婦人考」の中で取材者を出演し、8 人の残留婦人にインタビューしたことがあり、戦争経験者から史実を聞き取りした時、心が大きく震撼させられたと言います。



2019 国際平和デー、我々は平和のために歌う

9 月 21 日は国際平和デーで、この日の午後、「平和」をテーマとしたコンサートが記念館で開催され、記念館所属の紫金草合唱団団員が「世界に平和を」「平和の歌」「世界に愛が満ちるように」などの歌を歌い、大学生代表と観客代表が現場で折った紫金草の花を大きな平和の鳩に飾りました。



「南京・平和都市」国際切手展が記念館で開催された
9月21日、「南京・平和都市」国際切手展が記念館で開催され、中国、スイス、ベネゼイラなどの国のデザイナーが197点の作品を提出し、その中から一番素晴らしい17点を展示した後、その後デザイナーたちが一緒に新しい切手もデザインしました。



「2019 南京国際平和ポスター」 2年に一度の展示 が記念館で開催された

「2019 南京国際平和ポスター」 2年に一度の展示が 12 月 13 日から記念館で開催され、今回の展示のテーマは「平和と都市」で、中国、アメリカ、韓国、ポーランド、日本など 30 以上の国と地区から 5432 点の作品が応募しました。

審査委員に国際平面デザイン連盟会員靳埭強、国際平面デザイン連盟会員、スイス区主席フィオン・ニヤード、国際著名な平面デザイナー、韓国弘益大学教授安尚秀、国際平面デザイン連盟会員、オード・エザール、国際平面デザイン連盟会員、江蘇省広告協会理事、平面デザイン専門委員会主任曹方などの専門家が、まず 200 点の優秀な作品を選び、さらにその中から 30 点の作品を選びました。これらの作品は国と民族と言語と文化を超えて、人類の平和を願う心を伝えています。

この展示は国際平和都市協会が隔年で開催するものであり、来年からいろいろな国際平和都市で巡回展示される予定です。



温もり

記念館で誕生日会を、生存者たちと一緒に中秋節を過ごす

9月12日午前、記念館の職員と南京侵華日軍被害者援助協会のスタッフたちが11名の生存者と一緒に、南京の農村部の風光明媚なホテルで誕生日会を開催し、お茶とお粥と郷土料理を楽しみ、一緒に中秋節を過ごしました。

参加した生存者の平均年齢は90歳で、合わせて1000歳も超えたので、記念館の職員と南京侵華日軍被害者援助協会のスタッフたちが彼らのために、誕生日会を開催しました。

彼らは3年連続で10664名の犠牲者の名前を3回描いた

11 月中旬と下旬、南京航空航天大学金城学院と南京會計監査大学からの 100 名の学生たちが毎日ボランティアとして記念館に来て、10664 名の犠牲者の名前をきれいに描きました。

この活動は 2017 年に発足し、3 年間続き、大学生たちが実際の行動で歴史を学び、平和の尊さを改めて認識しました。



彼らは 21 カ国の将兵でありながら、平和の使者でもある

11 月 15 日、陸軍工程大学の留学生で 21 の国からの将兵たちが記念館で第 27 期南京紫金草国際平和學校の交流活動に参加しました。

この日、彼らは公祭広場で平和の鐘をついてから記念館を見学し、生存者陳徳寿さんと交流してから平和の花紫金草を作って、南京大虐殺犠牲者に献花しました。モザンビークからの若い女性コータンさんは「平和は若者が一生追求するものとなるべし」と感想を述べて、張建軍館長がみんなに卒業証書を手渡しました。



アイリス・チャンさんの逝去 15 周年

彼女の名前で命名された記念公園が落成した

今年の 11 月 9 日はアメリカ国籍中国人女性作家アイリス・チャンさんの逝去 15 周年の記念日です。22 年前、彼女が「南京レイプ」という本を完成し、世界中の読者が南京大虐殺の歴史に注目するようになりました。

この日の午前、アメリカカリフォルニア州サンノゼ市ではアイリス・チャン記念公園が落成し、公園の面積は 8000 平方メートル強であり、彼女の人生を紹介する石碑が設けられて、彼女のご両親が除幕式に参加しました。

記念館の職員と一部の観衆も祈念公園のアイリス・チャ

ン銅像に献花しました。ご両親から動画ビデオを頂き、その内容は彼女を偲ぶと同時に、彼女の名言「the power of one」によって、みんなを励まし、つまり信念や夢をあきらめずに、たとえひとりの力でも世界を変えることができると、716 万の観衆がネットで記念館作製の彼女を偲ぶビデオを見ました。

